



5歳未満の子供のしつけ

子供が安心感と後ろ盾を感じる温かな愛情関係があってこそ、しつけや家庭教育が効果をもたらします。

「子供の手本となる行動をする」

「否定ばかりせず、ほめ言葉を増やす」

子供は手探りで試行錯誤を重ね、自分自身と周囲のことを学んでいきます。

何にでもよじ登る、口に入れる、つつく、飛び跳ねる、触るといった行動のほかにも、大人に多くの質問をしてきます。

こうしたことの繰り返しから、子供は周囲の環境への理解を深め、自分たちの限界を知ります。

大人の手助けによって、子供たちは安全に試行錯誤を繰り返しながら、新しい知識を学ぶことができます。

こうした体験を通して、子供たちは大人になって必要な知識や知恵を習得していきます。

「一貫性のある子育てが重要」

「子供は正しいことをして大人を喜ばせたい」

効き目のあること

- 愛情、ぬくもり、ほめ言葉をたっぷりあげましょう。
- はっきりした意思表示をしましょう。
- 子供は上手にできたことを指摘されると自信がついて、新しいことに挑戦するようになります。
- 子供はほめられると良い行動を繰り返します。
- していいことと、してはいけないことをはっきりとわからせるようにしましょう。
- はっきりとしたきまりや限度を決めます。
- 問題が起きたら、そのことについて子供と話し合しましょう。
- 子供だけでは解決できず、大人の手助けが必要かもしれません。
- 話してもわからない年齢であれば、問題がなぜ起きたかを考えてみましょう。疲労、空腹を感じていた、あるいは苛立っていたのに、それを伝えることができなかつたのかもしれない。
- 子供が何らかの行動を拒否する時には、それがなぜかを考えてみましょう。
- 親の関心を引くためだったり、苛立っていたり、あるいはどうしていいかわからなかつたのかもしれない。
- また、抱っこや励ましが欲しいだけかもしれません。
- 自分の行動が引き起こす結果について子供に説明しましょう。
- 例えば、「猫をぶつたら引っ搔かれるよ」とか、「おもちゃを投げたら壊れちゃうよ」などです。
- これらを簡潔に子供にとってわかりやすい言葉で話します。
- 子供が言いつけにそむいたらおしおきしましょう。

効き目のあること（続き）

- 誰かを叩いたら「ごめんなさい」と謝らせる、おもちゃを取り上げる、散らかしたら片付けを手伝わせるなどもおしおきに入ります。
- 親も「ごめんなさい」と言いましょう。
- 親が言うことで子供にも身に付いていきます。
- 子供にして欲しい言動を自ら率先して行いましょう。
- 気長に辛抱強く接しましょう。
- 子供が自制心を養うまでには時間がかかります。



S.K.I.P

skip.org.nz

facebook.com/SKIPcommunity

- あらかじめ作戦を立てましょう。
- 例えば、大切なものは子供の手が届かない場所に置く、子供が疲れている時はスーパーへ連れて行かない、いつも横断歩道のある場所で道路を渡るようにするなどです。
- いつも「ダメ」や「～はしない」ばかり言わないようにしましょう。
- 「家の中で走っちゃダメ」ではなく「走ると怪我をするかもしれないから、家の中では歩きなさい」。あるいは「公園には行かないわよ」の代わりに「明日、考えてみようね」と言ってみましょう。
- 現実離れした考えを持つことはやめましょう。例えば、幼児が長時間おとなしく座ってられないことや、自分で食べられるようになったばかりの子供が食い散らかすのは当たり前のことです。
- 子供の成長に応じて、きまりや考え方を変えていきましょう。

「愛情を持って断固かつ公平な態度をとる」

「上手にできた時はほめて子供の意欲を高める」

- 食事や睡眠の習慣を決めておきましょう。
- 規則正しい生活ができるようになることで、子供は安心感を感じます。
- ユーモアを忘れないようにしましょう。
- 子供を怒るか、笑い飛ばすかをとっさに判断しなければならない時があります。
- 子供が顔中に口紅を塗りたくったとしたら、苦笑してしまうかもしれませんが、二度と同じことを繰り返さないように諭し、その理由も説明します。

「子供にかまって、愛情を注ぐことは甘やかしにならない」

「怒鳴ったり、叩いたりとは逆効果。

近くで静かに話したほうが効果があります」



S.K.I.P

skip.org.nz
facebook.com/SKIPcommunity

効き目のないこと

- 子供が間違っただけをしても愛情のお預けをしてはいけません。
- 親は子供の言動に腹を立てていても、子供は自分が嫌われたと思いません。
- 叩いたり、殴ったりしても、子供は何が間違っていたのかわかりません。
- それどころか、他人を殴ってもいいと教えているようなものです。
- 怒鳴り散らしたり、わめき立てたりしても、事態を悪化させるだけです。
- 深呼吸をして、ひとまずその場を離れ、親自身が頭を冷やしましょう。

「よその家庭からヒントを得ています」

「親は子の鑑（かがみ）」



S.K.I.P

skip.org.nz
facebook.com/SKIPcommunity

Skipは前向きな子育てを応援しています。

詳しくは : www.skip.org.nz

電子メール : info@skip.org.nz 電話 : 04 916 3300

子育ての支援団体に関する情報は、www.familyservices.govt.nz/directory

(全国案内) をご覧ください。



S . k . I . P

skip.org.nz
facebook.com/SKIPcommunity